

第一次国内研修 2019年6月8日(土)、6月9日(日)

場所：JICA 東北

1日目

- ・参加者自己紹介
- ・JICA 事業全般・開発教育支援事業・教師海外研修事業説明
- ・チームビルディング・開発教育手法紹介
講師：鈴木 精 氏
(学校法人九里学園高等学校教諭/青年海外協力隊OV (ザンビア))
- ・開発教育概論
講師：石森 広美 氏
(宮城県仙台二華高等学校教諭/15年度開発教育ファシリテーター)
- ・安全対策・健康管理説明 (JICA タンザニア事務所)
- ・参加者ミーティング



2日目

- ・ワークショップ「教育は私の権利 (『世界一大きな授業 (JNNE)』の一環)
講師：阿部 真理子 氏 (認定NPO法人IVY理事)
- ・教師海外研修報告
講師：細山 美栄子 氏
(八戸市立白銀中学校/18年度教師海外研修参加者)
- ・海外研修に向けた座談会 (海外研修と授業案作成について)
- ・授業案作成にむけて
講師：鈴木 精 氏



第二次国内研修 2019年7月6日(土)

場所：JICA 東北

- ・安全対策説明 (JICA 本部 安全管理室)
- ・海外研修説明
- ・授業実践報告
講師：阿部 貴治 氏
(岩手県立大船渡東高等学校/18年度教師海外研修参加者)
- ・授業実践報告振り返り/授業実践にむけて
講師：鈴木 精 氏
- ・参加者ミーティング



海外研修詳細日程については、3ページをご参照ください。



ムヒンビリ国立病院視察

小児科と産科に分かれ、一般病棟やICUなどを視察しました。



草の根技術協力事業「タンザニア東部ウルゲル山域におけるバナラ生産の形成と生計向上」視察事業説明の他、実際にバナラの育成方法を見学しました。



コーラヒル中等学校視察①

数学隊員の授業を見学し、練習問題の採点や解説など授業の補助を行いました。



コーラヒル中等学校視察②

生徒に将来の夢や学校生活について、インタビューを行いました。



コーラヒル中等学校視察③

現地教員と、教育で大切にしていることなどをテーマに意見交換を行いました。



モロゴロ中等学校視察

青年海外協力隊の活動見学の他、生徒に大切にしていることなどインタビューを行いました。



キラカラ小学校視察①

授業見学の他、児童に好きな教科や食べ物などインタビューを行いました。



キラカラ小学校視察②

最後に全員で日本の歌を披露しました。



青年海外協力隊へのインタビュー①

モロゴロで活動している青年海外協力隊3名にインタビューを行いました。



振り返り

今の研修の中で得た情報や研修での学びを振り返り、全員で共有しました。



WASSHA 株式会社視察

無電化地域で展開している事業の現場を視察し、現地の方から話を伺いました。



青年海外協力隊協力隊へのインタビュー②

ダルエスサラームで活動している青年海外協力隊3名にインタビューを行いました。

帰国後研修 2019年9月1日(日)

場所：JICA 東北

- ・授業案作成に向けた講義

講師：鈴木 精 氏



授業実践 2019年9月～11月

場所：各所属校

研修の成果を踏まえ、参加者が所属学校で授業を実践



事後研修 2019年12月7日(日)、8日(日)

場所：JICA 東北

1日目

- ・授業実践報告
- ・研修の振り返り

講師：鈴木 精 氏



2日目（開発教育指導者研修と同時開催）

- ・ワークショップ体験「おいしいチョコレートの真実（（特活）ACE 作成）」

講師：齋藤 久美子 氏

（高島町立高島中学校/18年度教師海外研修参加者）

- ・「開発教育実践における、追い風と向かい風を考えるワークショップ」

担当：清水 千絵 （JICA 東北）

- ・FKG 米沢 活動紹介

講師：寺澤 恵 氏

（米沢第五中学校、2008年教師海外研修参加者）

- ・県ごとネットワークづくりミーティング（今後1-2年の間に何ができるかの話し合い）



海外研修で印象に残った写真

参加の先生方に海外研修で特に印象に残った写真を2枚選んで頂きました。

長井市立豊田小学校 高橋 真江美 先生



『 大切な一口 』

キラカラ小学校にて。姉が小さなビニル袋に入った菓子を落とさないようにと妹に一つ渡す。それを大事においしそうに食べる妹。次の瞬間、手前で見えていた少年も一つ欲しいと言うように手のひらを差し出す。迷う姉。しばし考えたのち、彼女は彼に一つ渡した。私は一つの菓子をこんなに大事に味わったことがあっただろうか。

『 こんなところで 』

少し見づらい写真だが、私たちが乗っていたバスの車窓から。前を走るバスには漢字で「天元台高原」とある。私の故郷にほど近い山形県米沢市にある天元台高原スキー場のバスが遠く離れたタンザニアの地で走っている。この事実を目の当たりにした驚きと故郷とタンザニアのつながりに触れた喜びを感じて心が震えた。



『 やっぱり 子どもが大好き！ 』

「何が一番楽しかった？」何度か聞かれた質問。私の答えは「子どもたちとの交流！」タンザニアの子どもたちは、人なつっこくて、本当にキュート♡私が「にこっ」とほほ笑むと、どんどん寄ってきて…押しつぶされそうになります！子どもが大好きだと改めて実感した瞬間でした。



『 大きな夢をつかむために！ 』

モロゴロ中等学校で高校生にインタビュー。どの子も将来の夢が明確でしっかりと現実を見つめ、勉学に励んでいる姿が印象的でした。一方で恋の話もちらほらと…何事にも一生懸命で素直なところがカワイイ！あっという間の充実した時間でした。



伊達市立梁川小学校 半澤 敦司 先生

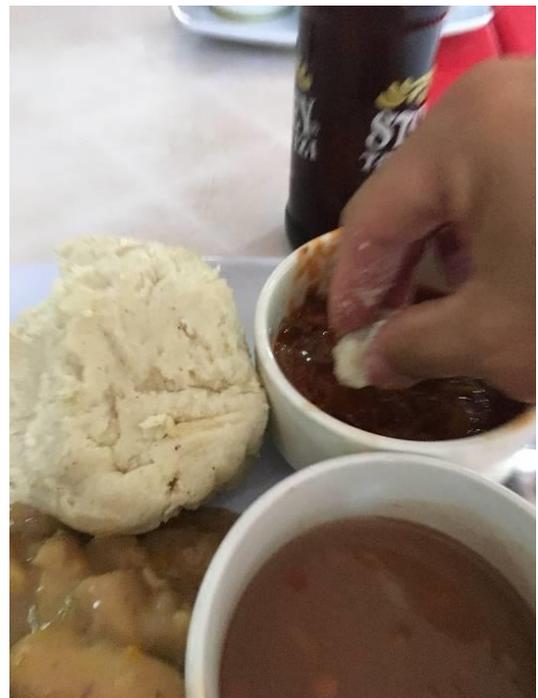


『 人なつこい子どもたち 』

視察に行った先で、近くに住む小学生以下の子どもたちに出会いました。家の近所でたまたま遊んでいた子どもたち、子どもはやっぱり遊んでる時の顔がいいですね。素顔が見れた気がしました。

『 ウガリ 』

人生初のウガリを食べる瞬間。とてもおいしかったです。タンザニアでは食べ物がおいしくて毎日もりもり食べました。手で食べると、なぜか、食べるぞ！命がつながってるぞ！と感じました。





『 アフリカの学校の現状 』

アフリカの学校に行って印象的だったことは、子どもたちは「教育を受けたい」「学校に行きたい」という思いが強いということでした。「子どもに対しての学校の数が少ない」「学校の設備が整っていない」「教科書を買えない子どもが多くいる」「子どもが働いている家庭もある」という現状を目の当たりにし、課題は多くありますが、子どもたちの根本の部分である「学校が楽しい」と思える所は素晴らしいと思った。

『 アフリカの国民性 』

タンザニアでは、人と人の心の距離感がとても近く、血は繋がってなくても、みんな家族、みんな兄弟みたいな考えで、お互い助け合って生きている。私たちの国では、物資が多く豊かで便利ではあるが、人同士のコミュニケーションは希薄化している。日本人が忘れてきている大事な部分をしっかりと持っていると感じた。タンザニアに行って、日本人の生真面目さと細やかさは良くも悪くもあるのだと思った。



『 ベンジャミン君のカバンの中 』

私たちの教えている生徒と何ら変わらないカバンの中であった。カバンの中には、筆記用具にノート、たまに昼食を入れてくる。そして、一番の違いは、ノートの使い古され方である。ぼろぼろにまで使われたノートから、学習への取り組む姿勢が窺えた。将来の夢はパイロット。是非叶えてほしいと思う。

『 パンを運ぶ 』

車窓から見られた光景であった。今ある最善の運搬方法で、最大に効果を発揮している積み方、むしろ芸術性を感じた。



岩手県立不來方高等学校 小野寺 明美 先生



『 I want to learn 』

コーラヒル中等学校では年齢が違う子供たちが同じ教室で一緒に学んでいました。年齢も体格も違うクラスメイトたち。板を組みたてただけのバラバラの椅子に、隣の人とくっつくように座っていました。でも、目は真剣そのもの。学びたいんだという強い気持ちを感じました。

『 Can I take a ride in a bus with you? 』

ワッシャーの見学から JICA のバスで帰る時、そのバスに乗りたいと言ってきた少年。聞くと、これから学校に行くのだそう。笑顔で交渉して、ちゃんとバスに乗り込むことに成功。学校は楽しいと笑顔で話し、学校が近くなると、礼を言って、さっと降りていきました。このちゃっかりさ！将来が楽しみです。



宮城県石巻西高等学校 千島 真未 先生



『 マンゴーツリー 』

学校のシンボルマークのように存在するマンゴーツリー。木の下ではおやつが売られていて、学生たちがたくさん集まっています。

日本の桜の写真を見せて、タンザニアを代表する植物は？と聞くと、「マンゴー！」と口をそろえていう生徒たち。季節にはたくさんのマンゴーが実をつけるそうです。羨ましい！

『 キラカラ小学校 朝礼 』

背筋を伸ばして敬礼する姿、元気な歌声、力いっぱい叩く太鼓、子どもたちのパワフルな姿は私たち笑顔にしてくれました。太鼓のバチの叩く部分はサンダルを切ってつくられたものだとか。サンダル部分が飛んでいってしまうくらい、一生懸命に太鼓を叩いて歓迎してくれました。子どもたちのパワーは世界共通！



学校法人 尚綱学院高等学校 及川 英恵 先生



『 折り鶴がつないだ友情 ～デイビッドくん～ 』

日本の生徒からのカードを読むと、おもむろに白い紙を地面に広げて大きな折り鶴を作り始めたデイビッドくん。「この手紙を書いてくれた女の子に渡してほしい！」と満面の笑みで差し出された折り鶴を私は大切に日本に持ち帰った。受け取った生徒は、涙目で喜んでいました。たった一羽の折り鶴に込められた想いに胸が熱くなった。

『 一枚の壁をはさんで ～シラフくん～ 』

卓球少年たちの姿。でも、もっと気になって仕方がなかった少年がいた。それは、外から中を覗きこんでいたシラフくん。嬉しそうに左右に飛び交うピンポン玉をずっと目で追っていた。制服は着ておらず、学校に通っていなかった。敷地内で働いていた。一枚の壁をはさんで、同い年の少年が同じ笑顔で全く違う生活をしていた。



秋田県立五城目高等学校 八柳 英子 先生



『 元気いっぱいな子どもたち 』

今回の研修で最も印象深いことの一つは、タンザニアで出会った人々の明るさです。「毎日を幸せに生きる」ことを大切にしている彼らの生き方に、大変感銘を受けました。私も「Be happy! Don't worry.」の精神を忘れずに生きていこうと思います。

『 タンザニアの食料事情 』

「実際の食料事情を知りたい」と思ったことが、今回の研修に参加したきっかけの一つでした。実際、タンザニアに行ってみると、食料が豊富にあり、かなり驚きました。しかし、インフラの整備が遅れ、全土に行き届かないこともあるようです。実際行ってみなければ分からないことだったので、大変勉強になりました。





『 隣においでよ 』

子供たちは机1つに3人ずつ座って授業を受ける。奥行き 30 cm、幅 1m程の小さな机は斜めに座らなければ3人が収まらない。私が近づくと、椅子を詰めて私の場所を作ってくれた。3人掛けに4人で座って授業を受けた。

『 ダルエスサラームの朝日 』

早朝から、イスラムのアザーンが流れている。
タンザニアの1日が始まる。

世界中、今もどこかで朝が来て、人々の生活が始まる。

